

祈りの友へ

教会の主、イエス・キリストの御名を讃美します。

今月も当校のためお祈りとご支援をくださり、心より感謝申し上げます。当校の取り組む C-BTE についてご理解いただくため、先回に続きくなぜ C-BTE なのかを掲載いたします。

## ＜なぜ C-BTE なのか＞ その4 「C-BTE 五つの基本概念」(3)

残りの四つの概念(委任、建て上げ、ハビタス、基本原則)は、なぜ「C-BTE」が重要であるか、その理由を解き明かす上で、とても重要です。それぞれ聖書の言及に基づくものですが、四つ目の「ハビタス」としての神学、つまり「神の知識と知恵を追求することで手に入れた習慣がその人の内性、気質、振る舞いとなるということ」に集約されるものです。

### ハビタスとしての神学

定義:人種、職業、性別等に関係なくすべての人間が一生涯に渡って身につけなければならない魂の方向性、まさに「習慣は第二の天性」を目指しています。

日々聖書から神についてより深く学ぶこと、すなわち、いかに魂を正しく導くかという知恵を得るはずの神学が(聖書、聖書原語、重要な文献の学び等を通して)、またどのような状況にある人間にとっても必要なものであるにもかかわらず、牧師などの専門職の備えのための学問的な学びに置き換えられてしまっている。神学とは本来ハビタス(知恵の伝統)であった。すなわち、いかなる立場の者にとっても必要な知恵を求めようとする魂の本能的なものである。しかし今日においては、専門的に牧会伝道を目指すための学問的な訓練の習熟に取って代わってしまった。(Developed by Edward Farley in *Theologia: The Unity and Fragmentation of Theological Education*.)

### 「ハビタスの手法」ですべての信者がたどる三つの段階

〈段階Ⅰ〉:聖書の基本原則の理解、その基本原則に基づいて聖書的に考える能力を「対話・問答」を通して発展させる。

〈段階Ⅱ〉:生涯に渡る知恵の追求の土台を発展させる。

〈段階Ⅲ〉:生涯に渡って、聖書の基本原則に基づいて聖書理解を求め、深める。

実際の学び、訓練は基本原則シリーズの「基本原則を教える」、基本原則シリーズⅠ～Ⅲを参照し、実際に取り組んでいただければと思います。

### なぜ、C-BTE「教会主体の神学教育」であるべきなのか、聖書の意図に注目する。

- (1)「信仰による神の救いのご計画の実現」である新約聖書のモデルであり、パウロとテモテからの委任である。
- (2)奥義としての「教会」の啓示から明確になった12弟子を訓練したイエスの手法と委任である。
- (3)伝道・牧会活動、学問的追求、いのちの交わりである教会の中で人格成長の統合が図られる。
- (4)訓練と牧会活動の中心の場としての神の家族「教会を建て上げる」ことになる。

### C-BTE の確かさ

- (1)いかに教会を生み出し建て上げるかについて、聖書が言っていることの学びである。
- (2)人種、性別、職業等に関係なく神がすべての人に学ぶようにと命じられた聖書の学びを可能にするものである。
- (3)生涯に渡る習慣と知恵を聖書から恒常的に学ぶことを可能にするものである。
- (4)各教会の、教会を生みだし、成長させる責任の自覚へと促す学びである。
- (5)指導者が次世代指導者を継続的に訓練していく学びである。
- (6)指導者として成長していく中で、人間としても適正なバランス(人格・知識・技能)を身につけた指導者育成(教会建て上げと相互牧会)を可能にし、動機づけを与える学びである。

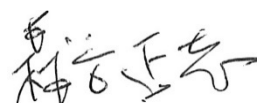
## 結論:C-BTE とは何か

- (1)C-BTE とは今までとは異なる、クリスチャンすべてが神の働きに備え、次世代指導者を生み出していく学びである(含む:各家族の建て上げ)。
- (2)C-BTE とは神の働きに備え、各種の次世代指導者を生み出していくためにはどのように取り組むべきかについて新約聖書から直接教えられる学びである。
- (3)C-BTE とは聖書が言わんとしていることを理解し、証し、伝道できる、かつ人格、霊性、技能においてバランスの取れた人間性を学び、訓練、かつ建て上げるものである。
- (4)C-BTE とは聖書を学ぶとはどういうことかを、もう一度聖書に戻って、聖書の意図に基づいて考えてみることである。

(次回に続く)

2019年3月1日

C-BTE Japan リソースセンター  
仙台バプテスト神学校



校長 森谷正志